

[12] ジャマイカ

1. ジャマイカの概要と開発課題

(1) 概要

(イ) ジャマイカでは1962年の独立以来、人民国家党（PNP：People National Party）とジャマイカ労働党（JLP：Jamaica Labor Party）の二大政党が民主的選挙により政権交代を繰り返している。2006年に4期連続して政権を担ってきたPNPのパターソン首相が退任、同年3月に同党のポーシャ・シンプソン・ミラー女史が後継者としてジャマイカ初の女性首相に就任した。2007年8月27日には総選挙が予定されており、その行方が注目されている（2007年7月現在）。

現政権は、英連邦の一員としての立場を機軸とし、国際協調の強化を図ることを外交の基本方針としている。また、ジャマイカはCARICOM内においてリーダー的存在であり、カリブ単一市場経済（CSME：CARICOM Single Market and Economy）に積極的である。

(ロ) ジャマイカ経済は、観光業の他、鉱業（ボーキサイト及びアルミナ）、農業（砂糖、バナナ等）等の伝統的製品の輸出、さらに海外移住者からの送金によって支えられている。食糧、エネルギーは輸入に大きく依存しているため、欧米先進国の景気、金利情勢や輸出品目の国際価格動向等の外部要因、また、頻発するハリケーン等自然災害の影響を受けやすい。2006年はハリケーン被害が無かったことや外国からの観光投資が相次いだことなどから、観光業及び農業の前年比の伸びが大きく、全体として2.5%の経済成長を記録するなど経済は順調であった。インフレ率は最近の目標とされていた1桁台である5.8%に抑えられている。他方、失業率は依然として10.3%と高い水準である。財政的には国内外に多額の負債を抱えている。

(2) 「中期社会経済政策フレームワーク」

ジャマイカ政府は中期的社会経済開発方針に基づき、「中期社会経済政策フレームワーク」（財務・企画省、企画庁、中央銀行共同作成）を策定し、予め定められた指標に従って、年度ごとの達成度を測る作業を行っている。同フレームワークは重点分野として、「教育」、「保健・衛生」、「貧困削減」、「治安」、「司法」、「統治」、「ジェンダー問題」、「持続可能な開発」を挙げており、それぞれの分野ごとに、「教育へのアクセス向上及び質の改善」、「疾患率、死亡率の抑制」、「HIV/エイズ予防・治療の質的改善」、「貧困削減と貧困者の社会参加」、「安全な国家造りのための効率的なリソース活用と効果的な法執行」、「司法の改革」、「統治の改善」、「ジェンダー間の平等化促進」、「持続可能な開発の確保」等の政策目標が立てられ、その下に具体的な目標が設定されている。

表-1 主要経済指標等

| 指 標 | | 2005年 | 1990年 |
|---|-------------|---------------------|----------|
| 人 口 (百万人) | | 2.7 | 2.4 |
| 出生時の平均余命 (年) | | 71 | 71 |
| G N I | 総 額 (百万ドル) | 8,952.33 | 4,157.63 |
| | 一人あたり (ドル) | 3,390 | 1,790 |
| 経済成長率 (%) | | 1.8 | 4.2 |
| 経常収支 (百万ドル) | | -1,078.69 | -312.10 |
| 失 業 率 (%) | | — | 15.7 |
| 対外債務残高 (百万ドル) | | 6,510.88 | 4,752.10 |
| 貿 易 額 ^{注1)} | 輸 出 (百万ドル) | 3,993.97 | 2,217.10 |
| | 輸 入 (百万ドル) | 5,974.88 | 2,390.10 |
| | 貿易収支 (百万ドル) | -1,980.91 | -173.00 |
| 政府予算規模 (歳入) (ジャマイカドル) | | 212,883,790,000.00 | — |
| 財政収支 (ジャマイカドル) | | -7,150,850,000.00 | — |
| 債務返済比率 (DSR) (対GNI比, %) | | 10.8 | 15.9 |
| 財政収支 (対GDP比, %) | | -1.2 | — |
| 債務 (対GNI比, %) | | 93.2 | — |
| 債務残高 (対輸出比, %) | | 141.1 | — |
| 教育への公的支出割合 (対GDP比, %) | | — | — |
| 保健医療への公的支出割合 (対GDP比, %) | | — | — |
| 軍事支出割合 (対GDP比, %) | | 0.7 | 0.6 |
| 援助受取総額 (支出純額百万ドル) | | 35.74 | 270.62 |
| 面 積 (1000km ²) ^{注2)} | | 11 | |
| 分 類 | D A C | 低中所得国 | |
| | 世界銀行等 | IBRD融資適格国 (償還期間17年) | |
| 貧困削減戦略文書 (PRSP) 策定状況 | | — | |
| その他の重要な開発計画等 | | 「中期社会経済政策フレームワーク」 | |

注) 1. 貿易額は、輸出入いずれもFOB価格。

2. 面積については“Surface Area”の値(湖沼等を含む)を示している。

表-2 我が国との関係

| 指 標 | | 2006年 | 1990年 |
|--------------------|------------|------------|-----------|
| 貿易額 | 対日輸出 (百万円) | 3,583.84 | 1,784.92 |
| | 対日輸入 (百万円) | 19,532.83 | 11,304.55 |
| | 対日収支 (百万円) | -15,949.00 | -9,519.63 |
| 我が国による直接投資 (百万ドル) | | — | — |
| 進出日本企業数 | | 2 | 3 |
| ジャマイカに在留する日本人数 (人) | | 182 | 71 |
| 日本に在留するジャマイカ人数 (人) | | 213 | 37 |

ジャマイカ

表-3 主要開発指数

| 開 発 指 標 | | 最新年 | 1990年 |
|--------------------------|--------------------------------------|----------------------|-----------|
| 極度の貧困の削減と飢饉の撲滅 | 所得が1日1ドル未満の人口割合 (%) | — | |
| | 下位20%の人口の所得又は消費割合 (%) | 5.3(2004年) | |
| | 5歳未満児栄養失調割合 (%) | 4(1996-2005年) | |
| 初等教育の完全普及の達成 | 成人(15歳以上)識字率 (%) | 79.9(1995-2005年) | — |
| | 初等教育就学率 (%) | 90(2004年) | 96(1991年) |
| ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上 | 女子生徒の男子生徒に対する比率(初等教育) | 1.00(2005年) | |
| | 女性識字率の男性に対する比率(15~24歳) (%) | — | |
| 乳幼児死亡率の削減 | 乳児死亡率 (出生1000件あたり) | 17(2005年) | 49(1970年) |
| | 5歳未満児死亡率 (出生1000件あたり) | 20(2005年) | 64(1970年) |
| 妊産婦の健康の改善 | 妊産婦死亡率 (出生10万件あたり) | 26(2005年) | |
| HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止 | 成人(15~49歳)のエイズ感染率 ^[1] (%) | 1.5 [0.8-2.4](2005年) | |
| | 結核患者数 (10万人あたり) | 10(2005年) | |
| | マラリア患者数 (10万人あたり) | — | |
| 環境の持続可能性の確保 | 改善された水源を継続して利用できる人口 (%) | 93(2004年) | 92 |
| | 改善された衛生設備を継続して利用できる人口 (%) | 80(2004年) | 75 |
| 開発のためのグローバルパートナーシップの推進 | 債務元利支払金総額割合 (財・サービスの輸出と海外純所得に占める%) | 10.1(2005年) | 14.4 |
| 人間開発指数 (HDI) | | 0.736(2005年) | 0.713 |

注) []内は範囲推計値。

2. ジャマイカに対するODAの考え方

(1) ジャマイカに対するODAの意義

ジャマイカは、1962年の独立以降民主的に政権交代が行われていることに裏付けられるように、安定した民主主義国家である。我が国のODAによって、小島嶼国であることに伴う経済的脆弱性を支援することは、ODA大綱の課題の1つである「持続的成長」にも合致し、ジャマイカひいてはカリブ地域における民主主義の安定に寄与する。

また、ジャマイカは自他共に認めるカリブ地域におけるリーダー的存在であり、CARICOM 諸国の対外政策にも影響を有していることから、国際場裡におけるカリブ諸国の支持を確保する上で、同国と我が国との間に緊密な友好・協力関係を維持することは重要である。ジャマイカと日本は地理的にも遠く離れ、政治的・経済的結びつきも必ずしも強くはないことから、同国との関係強化のために ODA は重要な外交ツールのひとつである。

(2) ジャマイカに対するODAの基本方針

ジャマイカの所得水準は比較的高く中所得国の水準にあることを踏まえ、草の根・人間の安全保障無償資金協力、技術協力及び円借款を中心とした援助を実施していく。また、世界銀行、IDB 等国際機関の日本特別基金等を活用した援助も実施し、我が国のプレゼンスを高めるべく努める。また、限られた ODA 予算を有効に活用しつつ、ジャマイカにおける我が国のプレゼンスを維持・向上せしめるため、効果的かつ広報効果が高い案件形成に努め、経済協力広報を強化する。

(3) 重点分野

2000年の第1回日・CARICOM 閣僚レベル会合において策定された「21世紀における日・CARICOM 協力のための新たな枠組み」に基づく重点分野を考慮しつつ、最近の状況に鑑み、以下を対ジャマイカ援助の重点分野としている。

(イ) 治安改善、(ロ) 貧困削減、(ハ) 保健・衛生、(ニ) 環境・災害予防

なお、開発課題としては、人材育成、雇用機会の拡充、環境・衛生向上、環境保全・災害予防への支援に重点を置いている。

3. ジャマイカに対する2006年度ODA実績

(1) 総論

2006年度のジャマイカに対する無償資金協力は0.30億円(以上、交換公文ベース)、技術協力は2.83億円(JICA経費実績ベース)であった。2006年度までの援助実績は、円借款534.21億円、無償資金協力14.55億円(以上、交換公文ベース)、技術協力71.87億円(JICA経費実績ベース)である。

(2) 無償資金協力

草の根・人間の安全保障無償資金協力として、「トリニティヴィル研修センター移転事業計画」、「トップマウンテン果実加工業振興・職業訓練事業計画」、「シダー渓谷地域住民のためのコーヒー精製所復旧・拡充計画」計3件を実施した。

(3) 技術協力

AIDS予防分野を中心に、26名の研修員を新規に受け入れ、1名の専門家、16名のJOCV、3名のシニア海外ボランティアの派遣を新規に行った。また、CARICOM広域案件として、開発調査「カリブ地域漁業水産開発・管理マスタープラン調査」を実施している。

4. ジャマイカにおける援助協調の現状と我が国の関与

UNDP等の国際機関、各国大使館・援助実施機関の間で「国際開発援助パートナー年次ドナー会合」を実施しているほか、支援分野毎にサブグループを形成し2か月毎に進捗状況の確認、情報の共有を目的とするレビュー会合を開催している。

5. 留意点

(1) カリブ諸国は共通する地域特性と類似する経済構造を有しており、開発課題の多くも各国に共通するものが多い。ジャマイカにおいて案件形成を行う際は他国においても応用しうるプロジェクトとなるよう心がけ、成功例を他国において活用することを検討する。

(2) 実施機関のプロジェクト遂行能力について十分吟味する必要がある。

表-4 我が国の年度別・援助形態別実績(円借款・無償資金協力年度E/Nベース、技術協力年度経費ベース)
(単位:億円)

| 年度 | 円借款 | 無償資金協力 | 技術協力 |
|-------|--------|--------|-------------|
| 2002年 | — | 0.40 | 4.41 (4.13) |
| 2003年 | — | 0.38 | 3.73 (3.59) |
| 2004年 | — | 0.04 | 3.78 (3.63) |
| 2005年 | — | 0.19 | 3.30 (3.21) |
| 2006年 | — | 0.30 | 2.83 |
| 累計 | 534.21 | 14.55 | 71.87 |

注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
 2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。
 3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。
 4. 2002～2005年度の技術協力においては、日本全体の技術協力事業の実績であり、2002～2005年度の()内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2006年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。

ジャマイカ

表-5 我が国の対ジャマイカ経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

| 暦年 | 政府貸付等 | 無償資金協力 | 技術協力 | 合計 |
|-------|--------|--------|-------|--------|
| 2002年 | -11.72 | 0.67 | 4.48 | -6.56 |
| 2003年 | -15.71 | 0.97 | 3.33 | -11.41 |
| 2004年 | -18.70 | 0.09 | 2.77 | -15.84 |
| 2005年 | -21.33 | 0.12 | 3.27 | -17.94 |
| 2006年 | -19.19 | 0.17 | 2.79 | -16.23 |
| 累計 | 74.57 | 11.68 | 63.05 | 149.33 |

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 政府貸付等及び無償資金協力はこれまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(政府貸付等については、ジャマイカ側の返済金額を差し引いた金額)。
 2. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁及び地方自治体による技術協力を含む。
 3. 四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。

表-6 諸外国の対ジャマイカ経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

| 暦年 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | うち日本 | 合計 |
|-------|-----------|----------|-----------|-----------|-------------|--------|-------|
| 2001年 | カナダ 19.77 | 英国 6.66 | オランダ 1.84 | ベルギー 0.38 | スウェーデン 0.35 | -4.29 | -0.96 |
| 2002年 | 英国 7.37 | カナダ 6.89 | オランダ 1.64 | ベルギー 0.94 | ノルウェー 0.57 | -6.56 | -3.83 |
| 2003年 | カナダ 8.56 | 英国 8.49 | ベルギー 2.14 | 米国 1.18 | ノルウェー 0.50 | -11.41 | 1.05 |
| 2004年 | 米国 11.64 | カナダ 9.23 | オランダ 7.72 | 英国 7.48 | ベルギー 1.93 | -15.84 | 7.81 |
| 2005年 | 英国 23.14 | 米国 17.52 | カナダ 7.61 | ベルギー 2.40 | ノルウェー 0.39 | -17.94 | 11.22 |

出典) OECD/DAC

表-7 国際機関の対ジャマイカ経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

| 暦年 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | その他 | 合計 |
|-------|-----------|------------|------------|-------------|-------------|-------|-------|
| 2001年 | CEC 41.04 | CDB 4.26 | UNTA 1.34 | UNICEF 0.75 | UNDP 0.08 | -3.29 | 44.18 |
| 2002年 | CEC 15.62 | CDB 14.26 | UNTA 1.48 | UNICEF 0.58 | UNFPA 0.28 | -3.94 | 28.28 |
| 2003年 | CDB 3.11 | CEC 1.54 | UNTA 1.47 | UNICEF 0.68 | UNDP 0.47 | -5.20 | 2.07 |
| 2004年 | CEC 58.13 | CDB 6.00 | GFATM 2.23 | UNTA 1.34 | UNICEF 0.87 | -1.33 | 67.24 |
| 2005年 | CEC 16.22 | GFATM 3.46 | CDB 2.09 | UNTA 1.65 | UNICEF 1.09 | -0.20 | 24.31 |

出典) OECD/DAC

- 注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表-8 我が国の年度別・形態別実績詳細 (円借款・無償資金協力年度E/Nベース、技術協力年度経費ベース)

(単位：億円)

| 年度 | 円借款 | 無償資金協力 | 技術協力 |
|-------------|---|--|---|
| 2001年度までの累計 | 534.21億円 (内訳は、2006年版の国別データブック、もしくはホームページ参照 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index/shiryo/jisseki.html)) | 13.24億円 (内訳は、2006年版の国別データブック、もしくはホームページ参照 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index/shiryo/jisseki.html)) | 54.48億円 研修員受入 242人 専門家派遣 76人 調査団派遣 166人 機材供与 692.01百万円 協力隊派遣 163人 その他ボランティア 2人 |
| 2002年 | なし | 0.40億円 ジャマイカ・アマチュア体操協会に対する スポーツ器材供与 (0.07) 草の根無償 (4件) (0.33) | 4.41億円 (4.13億円) 研修員受入 27人 (19人) 専門家派遣 8人 (8人) 調査団派遣 4人 (4人) 機材供与 4.81百万円 (4.81百万円) 留学生受入 5人 (協力隊派遣) (16人) (その他ボランティア) (6人) |

| 年度 | 円借 款 | 無 償 資 金 協 力 | 技 術 協 力 |
|-------------|----------|-----------------------------------|---|
| 2003年 | なし | 0.38億円 草の根・人間の安全保障無償(4件)(0.38) | 3.73億円 (3.59億円) 研修員受入 20人 (18人) 専門家派遣 5人 (5人) 調査団派遣 3人 (3人) 機材供与 28.3百万円 (28.3百万円) 留学生受入 6人 (協力隊派遣) (17人) (その他ボランティア) (4人) |
| 2004年 | なし | 0.04億円 草の根・人間の安全保障無償(1件)(0.04) | 3.78億円 (3.63億円) 研修員受入 51人 (25人) 専門家派遣 3人 (2人) 調査団派遣 7人 (7人) 機材供与 18.08百万円 (18.08百万円) 留学生受入 6人 (協力隊派遣) (19人) (その他ボランティア) (2人) |
| 2005年 | なし | 0.19億円 草の根・人間の安全保障無償(2件)(0.19) | 3.30億円 (3.21億円) 研修員受入 27人 (24人) 調査団派遣 2人 (2人) 機材供与 40.07百万円 (40.07百万円) 留学生受入 12人 (協力隊派遣) (12人) (その他ボランティア) (2人) |
| 2006年 | なし | 0.30億円 草の根・人間の安全保障無償(3件)(0.30) | 2.83億円 研修員受入 26人 専門家派遣 1人 調査団派遣 6人 機材供与 1.18百万円 協力隊派遣 16人 その他ボランティア 3人 |
| 2006年度までの累計 | 534.21億円 | 14.55億円 | 71.87億円 研修員受入 354人 専門家派遣 92人 調査団派遣 188人 機材供与 784.42百万円 協力隊派遣 243人 その他ボランティア 19人 |

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
 2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協経費実績ベースによる。
 3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。
 4. 2002～2005年度の技術協力においては、日本全体の技術協の実績であり、2002～2005年度の()内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2006年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。
 5. 調査団派遣にはプロジェクトファイナディング調査、評価調査、基礎調査研究、委託調査等の各種調査・研究を含む。
 6. 四捨五入の関係上、累計が一致しないことがある。

表-9 実施済及び実施中の技術協力プロジェクト案件(終了年度が2002年度以降のもの)

| 案 件 名 | 協 力 期 間 |
|---------------------------|-------------|
| 技術高校職業教育改善計画 | 97. 5～02. 4 |
| 南部地域保健強化プロジェクト | 98. 6～03. 5 |
| 効率的な給水と水質向上のための組織強化プロジェクト | 07. 3～10. 9 |

表-10 2006年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

| 案 件 名 |
|-----------------------------|
| トリニティヴィル研修センター移転事業計画 |
| トップマウンテン果実加工業振興・職業訓練事業計画 |
| シダー渓谷地域住民のためのコーヒー精製所復旧・拡充計画 |

図-1 当該国のプロジェクト所在図は944頁に記載。